

題 目	総 合
-----	-----

- ※ 問題用紙は(その一)から(その六)までありますから、注意してください。  
 ※ 答えは、別紙の解答らんに入力してください。

1 10 次の——線部を漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- |   |                 |    |                 |
|---|-----------------|----|-----------------|
| 1 | アンイな結論は出さない。    | 2  | ドナウ川のカコウ。       |
| 3 | 新しいジユウキヨに引っこす。  | 4  | パーティーにシヨウタイされる。 |
| 5 | よくコエタぶたを市場へ出す。  | 6  | 運命にはサカラエない。     |
| 7 | コウソクをしつかり守って学ぶ。 | 8  | 作品を大切にホカンする。    |
| 9 | ノウコウ文明が発達する。    | 10 | イシカ病状を説明する。     |

2 10 次の各問いに答えなさい。

問一 ⑤ 次の各文の( )にあてはまる最も適切な言葉を後から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- |   |                      |
|---|----------------------|
| 1 | 雪が( )と降りつついている。      |
| 2 | 突然の地震におどろき( )する。     |
| 3 | よほど空腹だったのか、( )食べ始めた。 |
| 4 | ねらいどおり一等になって( )顔だ。   |
| 5 | 犯人が思いがけないところに( )現れた。 |
- ア おたおた    イ がつつ    ウ ほくほく    エ のこのこ    オ しんしん

問二 ⑤ 次の言葉に後のア～オのいずれかの言葉を組み合わせると、ことわざが完成します。最も適切なものを選び、ア～オの記号でそれぞれ答えなさい。

- |   |        |
|---|--------|
| 1 | 能ある鷹は  |
| 2 | 雀百まで   |
| 3 | 井の中の蛙  |
| 4 | 立つ鳥    |
| 5 | 一寸の虫にも |
- ア 大海を知らず    イ 踊り忘れず    ウ 五分の魂    エ 爪を隠す    オ 跡を濁さず

3 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

あなたは、どんな本が好きでしょうか。

だれかの伝記とか、小説や写真集、科学物語、漫画本、悲しい物語、詩や歌の本など、あなたの本棚にも、いく冊かの本があることでしょう。その中で、あなたが、何度でも、読んでみたいと思う本はありませんか。図書館にある本でも、くり返し読んでみたい本があったら、その本は、たぶん、① いい本にちがいないと思います。

どんな種類の本でも、自分が、おもしろいと思えるものを読めばいいのですが、本の中には、読んでいるときはおもしろくても、読み終わってみると、なんだ、つまらないと思わせられるものがあります。

A、読んでいるときは、おかしくてげらげら笑ったり、あるいは、涙が出てくるようなところがあっても、読み終わったとたんに、みんな忘れてしまうようなものがあります。こういう本は、たいてい、つまらない本だと思います。

本を読んでも、よくわからなければ、つまらないものですが、ただ、② わからないというだけで、その本をつまらなさと決めてしまうのは、よくないと思います。

あなたは、一年前には、冒険ものや、やさしい童話ばかり読んでいたのに、このごろは、そういう本にあきてきて、科学読みものなどがおもしろいと思うことはないでしょうか。

一年前には、ちつともおもしろくなかった科学読みものが、このごろは、とてもよくわかっておもしろいとしたら、それはあなたが、それだけ成長したからです。

だれでも、いっしょうけんめいで生きている人は、たえず、その人なりに成長していくものだと思っています。

B、前に読んだときはよくわからなかった本が、やがてわかるようになったり、前には何とも感じなかったことも、次には感じられる力ができてくるのだと思うのです。

ことに、りっぱな文学作品といわれるようなものは、読み返すたび、何か新しいものを感じることが出来るものです。反対に、あまりすぐれた作品でない場合は、初め読んだときには、とてもおもしろいと思ったのに、しばらくしてからまた読んでみると、それほど感心できないことが多いでしょう。

読む人の力によって、いい本は、いろいろのことを教えてくれますが、ちよつと見て、おもしろそうだなと思う本だけを読んでいるのでは、ほんとうに③ 本から何かをつかんで、自分のものにする事は出来ないと思います。

C、むずかしい本を読むことだけが、必ずしも、りっぱな本の読み方ではないのですから、自由に、読みたい本を読んだらいいと思います。頭をかかえながら、よくわからない本を読むだけが、読書だなどと思つたら、本を読むのは苦しいことになります。

私たちが本を読むのは、自分の知らない世界のいろいろなことを知つたり、また、一つのことを、深く研究している人の意見を、本によって知り、その中から、自分の心の養いになるものをつかみ、また自分の考えていたことと比べてみて、もっと深く、考えてみるためなのですから、いくら読んでもさっぱりわからない本は、途中でやめても、さしつかえないのです。

ただ、よくわからなくても、どうしても心をひかれて、もう一度読んでみたいと思う本もありますから、そういう本は、しばらくたつてから、また読んでみるといいのです。二度めに読んだら、前にはわからなかったことが、よくわかるという本は、たいてい、いい本です。

小説とか随筆集とか、その他文学的なものは、筋ばかりわかつて、ほんとうに、その内容をわかつたとはいえません。ちよつとした会話とか、自然をえがいた一節に、それを書いた人の気持ちがこめられていることがありますから、④ そういうことにも、注意して読むといいと思います。そして、心に残つたところを、ノートに抜き書きしておくのもいいことです。

また、あなたが読んだ本の題名と、その本を書いた人の名前、発行所(出版社名)などを、書いておくのも、参考になります。

さらに、自分が読みたいと思って選んだ本と、ご両親や先生、そのほかの人にすすめられて読んだ本を分けて書き、その本の内容といっしょに考え合わせてみれば、あなたの選んだ本がどういう本で、ほかの人にすすめられたのがどういう本かということもわかるでしょう。

45

いい本を、初めから自分で選ぶのは、なかなかむずかしいものですから、こういうノートを作っておいて、考えてみるのも、何かの役に立ちます。

雑誌や新聞も、私たちに、いろいろなことを教えてくれますが、やはり、まとまったものを読む力をつけるためには、若いときから、一冊になった本を読んでおくことが大切だと、今94歳の私は強く思います。

50

そして、よくわかったか、わからなかったかを、考えてみましょう。

（吉沢久子「94歳から10代のあなたへ伝えたい大切なこと」〈海竜社〉より）

問一◇ ——線①「いい本」とありますが、これはどのような本のことですか。「う本」につながるように、文章中から二十四字と二十八字で二か所さがし、それぞれはじめとおわりの四字をぬき出して答えなさい。

問二◇   にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。  
ア けれども イ だから ウ たとえば

問三◇ ——線②「わからないというだけで、その本をつまらなさと決めてしまうのは、よくないと思います」とありますが、これはどうしてですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア やさしい童話ばかり読んでいる間はどんな本もむずかしいと感じてしまうから。
- イ いい本ほど一回読んだだけでは内容がまったくわからないようになっているから。
- ウ いずれ成長して読む力がつけばそれがわかるようになっていることがあるから。
- エ むずかしくてよくわからない本ばかりを読むことだけが読書とは言えないから。

問四◇ ——線③「本から何かをつかんで、自分のものにする」とありますが、これを別の言葉で言いかえた次の文の空欄にあてはまる言葉を文章中から十字でさがし、ぬき出して答えなさい。

- ・本を読んで  ものを得る。

問五◇ ——線④「そういうこと」とありますが、これはどういうことですか。文章中の言葉を使って四十文字以内で答えなさい。

問六◇ 文章中で筆者のすすめる本の読み方として、適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分がおもしろいと思う本を自由に選んで読めばよい。
- イ いくら読んでもわからない本は途中でやめてもよい。
- ウ 心に残ったことや本の説明を書きとめておくもよい。
- エ 人にすすめられるものよりも自分で選ぶもののほうがよい。

4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ボクのお祖父ちゃんは心臓の手術を行い、浦賀にある家でリハビリをしている。ボクのお母さんを含む三人の娘は交替でお祖父ちゃんの家泊まり、お祖父ちゃんの世話をすることになった。ボクも金曜日から週末にかけてお母さんといっしょに行くことになり、金曜日は学校が終わると浦賀に直行した。

お皿にはアンパンだけがポツンと残っていた。さすがにお祖父ちゃんの帰りが遅いことが気になりはじめた。金曜日はアンパンの日で知ってるはずなのに。

外が薄暗くなってきた。テレビ画面のすみに表示される時刻が五時二十分になった。①胸騒ぎがして、お祖父ちゃんが納戸として使っている玄関横のクローゼットを開けてみた。いつもの作業服が見当たらない。あわてて玄関の三和土に目をやった。長靴もない。

携帯電話をひっつかみ、ボクは外に飛び出した。裏山の方角に向かつて道路を駆けあがりながら、お母さんの携帯の電話番号を押した。まだ仕事なのか、つながるのに時間がかかった。

「お祖父ちゃん、畑に行ったかも」

お母さんが息を※のがわかった。

「すぐ、畑に行つて！」

携帯の向こうでお母さんが怒鳴った。

「もう向かつてる！」

ボクも怒鳴り返した。

ノンキにおやつなんて食べてる場合じゃなかった。いや、その前に、なんで気がつかなくったんだろう、玄関に長靴がなかったことに。ボクは自分のウカツさを呪った。お祖父ちゃんの、あの本気のリハビリは畑に行くためだったんだ。

陽が落ちていくにしたがつて蒼から黒に変わっていく裏山のシルエットがマントを広げた死神のように見えた。言葉だけで知っていた『死』というものをすぐそこに感じた。こわくてこわくて生きた心地がしなかった。だから、夕闇の中、白っぽい犬を連れた人影が住宅街の坂の上に現れたとき、大げさじやなく、へなへなうって腰がぐくだけてしまった。

その場にしゃがみこんでしまったボクをお祖父ちゃんはAに見下ろしていた。自分がなにをしたかわかっていないようだった。

「もつと早く帰るつもりだったんだけどな」お祖父ちゃんは口の端で、ちょっとBに笑った。「長いこと行ってなかったもんで、おもいのほか時間がかかっちゃった」

そこじゃないって。ボクは心の中で叫んでいた。帰りが遅いとかじゃないんだよ。なんで黙って行っちゃうの、そんな体でなんで一人で畑なんか行っちゃうの。

声に出して言えなかったのは、②お祖父ちゃんがやけに爽快な顔をしていたからだ。

そのとき、握りしめていた携帯電話が振動した。

お祖父ちゃんは何？ 緊迫した声の後ろから電車の発着を知らせるアナウンスが聞こえた。お母さんが横駅のホームに居ることがわかった。

③無事に帰って来たことを伝えたボクの耳の内側を息の音が揺さぶった。腹の底から出たような長いため息だった。

「だいじょうぶ、お祖父ちゃん、元気だから。ってゆーか、なんかすっきりした顔してるし」

できるだけ明るい声でフォローしてみたけど、電話は沈黙したままだった。

お母さんが怒っているのがわかった。

④今夜は修羅場だ。ボクの口からも小さくため息がもれた。

夜、ケイコおばさんとナオコおばさんが浦賀に駆けつけてきた。

ケイコおばさんはいつもよりこわい顔をしていた。相当頭に来ていたのだろう、自分が帰ったあとを狙うように畑に出かけたお祖父ちゃんに。

5

10

15

20

25

30

35

ナオコおばさんの顔はいつもと同じだった。ただ、口調がビミョーにこわかった。

40

お祖父ちゃんも、これくらいのことで大騒ぎする身内に腹を立てていたけれど、今回ばかりはさすがのお祖父ちゃんも我を張り通すのはむずかしいだろうとボクは思った。

畑のことだけではない。「熱い風呂は体に毒ですよ」も「辛い物は食べちゃいけないってお医者さんも言ってたでしょ」も父親を心配しての忠告なのに、ことごとくブチ切れるお祖父ちゃんに、⑤お母さんたちも忍耐の※結界にはられたお札は今にもはがれ落ちそうになっていたからだ。

45

とはいえ、お母さんもケイコおばさんもナオコおばさんも『畑』を止めさせようとしたわけじゃなかった。問題は、畑が山の上にあることだった。

心臓の半分の筋肉がスカスカになってしまった老人に山道の急勾配は負担が大きい。このつき発作が起きたら、きっと助からないだろう。畑仕事をしたのなら庭で野菜を育てたらいいじゃないか、というお母さんたちの言い分はフツーに真つ当な主張だったけど、お祖父ちゃんが他人の言うことを聞くわけがないこともお母さんたちはわかっていた。

50

あとはもう、⑥双方がどこで折り合いをつけるか、だった。

どうしても山の畑じゃなくちゃダメならあたしたちがついていけるときだけにして、とお母さんたちは要求した。お祖父ちゃんは、ものすごくCな顔をした。ボクも、『あたしたち』がついてくるのはちよつとイヤかも、と思った。

55

(花形みつる「徳治郎とボク」〈理論社〉より)

※結界：仏教などで、悪いものを中へ入れないためにお札をはって自分や周りを守るもの。お札がはがれると効果がうすれてしまう。

問一◇ ー線①「胸騒ぎ」について次の問いに答えなさい。

- このときのボクの様子として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。
  - ア お祖父ちゃんがアンパンも食べないで出かけていったことを不思議に思っている。
  - イ お祖父ちゃんに何かあったのではないかという悪い予感がして胸がどきどきしている。
  - ウ このままではボクがお母さんにひどく怒られるかもしれないと不安になっている。
  - エ もしかしたらお祖父ちゃんは畑に行つたのかもしれないと気づいてほつとしている。
- このときのボクの気持ちが、最悪の事態を想像して、さらに深刻になっていることがわかるひと続きの三文を文章中からさがし、はじめの五字を書きぬいて答えなさい。

問二◇ ※にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア はいた      イ こらした      ウ ころした      エ のんだ

問三◇ AとCにあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 苦しそう      イ 気まずそう      ウ 不思議そう      エ 嫌そう

問四◇ ー線②「お祖父ちゃんがやけに爽快な顔をしていた」とありますが、この理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ボクがさがしに来てくれたので無事に家に帰ることができるとわかったから。
- イ 長い間リハビリをがんばって何の心配もなく畑まで歩けるようになったから。
- ウ ずつと行きたいと思つていた畑に行つて思う存分作業をすることができたから。
- エ いつもと同じように行動しているのになぜ心配されるのかわからなかったから。

問五④ — 線③「無事に帰って来たことを伝えたボクの耳の内側を息の音が揺さぶった」とありますが、ここからわかることとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア お母さんのボクに対してこらえてきたいらだちがとうとう爆発しそうになっているのが伝わったこと。
- イ お母さんがお祖父ちゃんのことではらはらし、緊張していた状態から解放されたのが伝わったこと。
- ウ ボクはこれからまたお母さんを困らせてしまうかもしれないという気がしてきたということ。
- エ ボクがおそろしくて不安な精神状態からぬけられて、心の底からほっとしているということ。

問六④ — 線④「今夜は修羅場だ」とありますが、このときのボクの気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 家族でのほげしい話し合いが行われることがほぼ確定し、うんざりしている。
- イ お祖父ちゃんのせいで自分がみんなに責められると思い、こわくなっている。
- ウ またいつものお母さんの長いお説教がはじまると思い、がっかりしている。
- エ また別の大きな問題が起こりそうな予感がして少しわくわくしている。

問七④ — 線⑤「お母さんたちも忍耐の限界にはられたお札は今にもはがれ落ちそうになっていた」とありますが、これはどういう様子のことを言おうとしているのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア もうあきらめるしかないという様子。
- イ もうこれ以上がまんできかないという様子。
- ウ どうしたらよいかわからないという様子。
- エ もうゆるしてあげてもいいという様子。

問八④ — 線⑥「双方」とは「あちらとこちら」という意味ですが、ここでは何と何を指していますか。文章中から六字で二つぬき出してそれぞれ答えなさい。